ミニッツオーバーランドシリーズ

ハマーH2

最大登坂角はなんと45度！ 専用サスペンション＆シャシーが生み出す走破性の高さは、アメリカンSUV界のキングである本物も顔負けだ。しなやかにロールしながらのコーナリングは、まさに実車感覚。障害物のあるコースも、平らな路面も両方楽しめるのが嬉しい。

コースごと持って帰りたい程、仕事を忘れて熱中した。

ランプの質感や細かな塗装の塗り分けなど手抜きナシ。

リアスタイルも重厚感溢れるもの。最低地上高は十分。

ロスコートという特殊な塗装方法が効いている。実車でいうところの表面質感がとてもいい、のだ。

とまあ、ここまでで既にハマったも同然だが、決定的だったのはやはり〝操って楽しかった〟こと。

電池を入れるだけで準備はOK。オフィスより広い専用の屋内サーキットで、まずはミニッツレーサー・SLRマクラーレンを走らせてみた。とにかくその動きの理屈が本物に近いことに驚かされる。ドライビングテクニックの基本は荷重移動にあると言われるが、それはミニッツでも同じ。素早いコーナリングを実現するためには効果的なブレーキングでフロントタイヤに荷重を移した方がベターだし、コーナーの立ち上がりで早めにパワーオンすれば意図的に後輪を滑らせてドリフトもできる。

オーバーランドシリーズと呼ばれるオフロードタイプのミニッツ・ハマーH2ならばさらに実車に近い操縦感覚だ。サスペンションの動きのリアルさは圧巻。足回りをググッと沈みこませながらコーナーを抜ける。そのときのしなやかに沈む感覚が指先にちゃんと伝わってくるから不思議なものだ。

また、専用サスペンションの威力は、障害物を置いたコースでこそ大いに発揮される。コレは無理でしょ、と思うような障害をいとも簡単に越えていく。本物以上の走破性で、コイツなら雑然としたオフィスでも十二分に楽しめそう。

操って本格派、しかも手軽に楽しめる。遊ばないときはコレクション棚に飾って……。もう一度、R／CカーにハマってみたいTV気になってきた。

本格的なサスペンションシステムが魅力のオーバーランドシリーズ。様々なオプションパーツで性能向上が図れるのは、他シリーズ同様だ。ボディは塗装済みのグロスコート仕上げ。価格1万6590円。

M・ベンツSLRマクラーレンのボディが載るのは低重心が自慢のMR-02シリーズ。R/Cユニットが組み込まれた完全完成シャシーとホイーラータイプの送信機などが付くレディセット。価格1万6590円。

※乾電池は別売となります。

にしがわじゅん●幼少の頃からクルマ一筋、大学で機械工学を学んだ末、自動車ライターに。ランボルギーニ・カウンタックLP400とフェラーリ365GT4BBを所有するスーパーカー狂。

現在、ミニッツレディセットを購入すると、抽選でミニッツ用の限定ボディが当たる特別キャンペーンを2005年1月31日まで実施中！ キャンペーンの詳細については下記ホームページ、またはキャンペーン事務局までお問い合わせ下さい。
問京商「ミニッツを2倍楽しもう！ キャンペーン」事務局
☎03-5282-1199

KYOSHOミニッツシリーズについての詳しい情報は、京商株式会社のホームページhttp://www.mini-z.jpまたはhttp://www.kyosho.co.jpで。抽選でミニッツが当たるプレゼントキャンペーンも実施中。

グラマラスなリアデザイン。実車同様の迫力を醸し出す。

スリットやグリルの網目、細かなパーツを正確に再現。

その動きは実車さながら。基本を守れば速く走れる！

ミニッツレーサーMR-02シリーズ

メルセデス・ベンツSLR マクラーレン

F1直系のテクノロジーが息づく超ド級のスーパースポーツ。ミニッツでは単4電池4本を水平に並べる低重心シャシーを採用することで、低く流れるようなスタイルと高次元の走りを見事に両立させた。モーターをミッドに積むタイプのMMシャシーが用意される。

大人のR/Cカー講座 vol.4

自動車ライターの西川淳さんが、ミニッツにハマった理由。

text：Jun Nishikawa/Jun e Co.
photographs：Takashi Shimizu

M・ベンツSLRマクラーレンとハマーH2を操ってみませんか。そんなオーダーが編集部からきて、本物に乗れるの？ 嬉しいゾと期待するほど僕は素人じゃない。だから、ミニッツっていうR／CカーですけどV、と付け足されてもガッカリはしなかったし、かといって「いえちょっとそのお仕事は……」なんて断りもしなかった。実のところ、ふたつ返事で、かなり大喜びで引き受けたのだった。なぜかというと……。

R／Cカーとはいえ、やっぱりクルマ好きには堪らない2台であるというのが、まず1つ。ハマーH2といえば流行りの大型SUVの中でも王様のような存在。かたやSLRマクラーレンといえば、先だって正規輸入元から5775万円也と発表されたばかりのスーパースポーツカーである。

もう1つは、取材するのがミニッツシリーズだったという点だ。実はその出来映えの良さはオフィスに〝飾って〟あるエンツォ・フェラーリで既に知っていた。

要するにこの2車種とミニッツシリーズの組み合わせは、それだけでクルマ好きと模型好きをグラグラさせるに十分、なのである。

僕はクルマ好きであると同時にミニカーやR／Cカーも昔から大好きだ。順を追えば、ミニカー→プラモデル→R／Cカー→本物へと、はなはだ正常に、真っ当に僕のクルマ人生は〝進化〟してきた。ミニチュアカーなどは今でも積極的に買うし、眺めて悦に入ることもしばしば。自分でいうのも何だけれど、本物に対する評論はともかく（一応それが仕事だったりするが）、クルマ模型への審美眼は持ち合わせているという自負がある。

はたして初めて手に取って見たM・ベンツSLRマクラーレンとハマーH2のミニッツ版は、ディスプレイ用としても十分通用する出来映えであった。ことにSLRは、流れるような全体のシルエットや複雑なフロントセクションの造形、さらにはブレード形の特徴的なホイールなどが手を抜くことなく再現されていて、感心することしきり。実物の値段が高いクルマの良くできたミニチュアはそれなりに高価に見えるもの、が僕の持論だけれど、ミニッツ版SLRはそんじょそこいらのオモチャとは一線を画するデキである。

もちろんハマーH2だって、手のひらサイズにもかかわらず本物の持つ重厚感が再現されていて、思わず顔に近づけてしげしげと、なめるように見入ってしまった。

これは両方に言えることだが、細かなパーツの再現力に加えてグ